

日 時：平成 26 年 6 月 23 日（月）18 時 30 分 ～20 時

場 所：猿賀公民館

対象町会：猿賀

参加者：36 名

| 内 容 |
|--|
| <p>(市民からの要望・質問)</p> <p>○地域活性化について</p> <p>当町会において半数位が 60 歳以上の高齢者がいる世帯である。毎年、納涼祭を行っているが、集まる人は 60 代以上である。町会を活性化するため 30～50 代がどうしたら集まってくれるのか考えているが、妙案が浮かばない。最近、若い人が空き家だった所に住んだり、空いた土地に家を建ててきたが、隣近所がわからない、名前はわかっても話をしたことがないとの声がある。町会が一つになるのはなかなか難しく、若い人に町会に入ってもらおうにも理解してもらえないことが多い。市も一緒になって考えてほしい。</p> |
| <p>(市の回答)</p> <ul style="list-style-type: none">・猿賀町会は新しく家を建てた方に、町会加入してもらおう等努力をしている。「町会の世話にならないから入らない」と言う事も聞くが、防犯灯を使っているしゴミも出している。お互い様だという意識をもつようにしなければならない。地域活性化は経済的活性化だけでなく町会コミュニティを仲良くやっていくことでもある。話し合いの場を持ち、連携しながら地域コミュニティ活性化をはかりたい。・4 月 1 日から子育て支援課を設け、子育てに関して相談できるようにした。7 人体制である。併せて保育料の第 2 子無料化も始めた。特定出生率が県は 1.4 なのに対して平川市は 1.28 と低い。今年度予算で 7,400 万円かかるが、結婚している若い世代に子ども 2 人は生んでほしい。保育料無料化対象となる第 2 子は 431 人位である。乳幼児医療費も 3 歳までではなく小学校入学まで無料にした。また、学校給食費の消費税増税分を値上げすることなく、市で負担した。県内でも値上げしない所は少ない。・地域活性化のためには若い世代が多くなっていかなければならないが、晩婚化が進み出生率も減っている。商工会で行った「電車 de 合コン」にも予算を付けたが、若い人の出会いを促していきたい。・碓ヶ関地域は 65 歳以上が 46%以上いるが、高齢者だけで地域づくりをしようと地域活性化協議会を作っている。 |
| <p>(市民からの要望・質問)</p> <p>○除排雪について</p> <p>市道の除雪について何回か問い合わせしている。除雪には来てくれても「排雪はお金が足りない」と回答される。すべての町会の要望には応えられないかもしれないが、長期計画で箱物を建てるよりも、弘前市のように地域に密接した除排雪等をして初めて、市民</p> |

は市もたいしたものだと思うのではないかと。

(市の回答)

- ・排雪には除雪と同じ位経費がかかる。地域によっては地域活性化事業の中でコミュニティ補助を使いながらやっている所もある。市として行う場合は、どこにもやる所がない場合だけではないだろうか。
- ・合併以来、除雪予算は1億6千万円である。本来排雪は行わないが、H23、H24年度は豪雪だったので、その2年間につき行った。H23年度は3,000万円、H24年度は4,300万円であった。排雪でかかるのがダンプの借上料で、市で持っているダンプは1台しかない。弘前市、青森市では毎年排雪しているが、市街地に限られている。当市はまだ空き地や雪を寄せる場所があるので、ご不便をおかけしているが、空き地に寄せながらしのいでいる。本当に危険な場所、交通の確保ができない場所については排雪しているので、土木課へ教えてほしい。

(市民からの要望・質問)

○街灯のLED化について

猿賀町会には街灯が約200位ある。猿賀小学校の前の通りは県道であるが、その通りで高学年の女兒が声掛けされる事件が、年間4、5件発生している。町会内で40か所をLEDに交換しているが、市の防犯灯は予算がなくまだ行っていない。町会としてはすべてLEDに交換したいと考えている。LED1基つけると1万2千円位で、蛍光灯と大体変わらないので、LEDにする際に助成してほしい。地域を明るくするだけでなく将来地域の宝となる子どもの安全を守るためLEDをつけようと思っているので、いくらかでも助成してほしい。

(市の回答)

- ・春の行政委員会議でも話が出たので、市内全域の街灯・防犯灯をLED化したいと思っている。6月議会で調査のための予算約300万円がついた。今後、どこの街灯にどのLEDがつけばいいか調査し、できれば来年度1年間で市内約4,000か所の街灯・防犯灯をすべてLED化するべく動いている。すべてLED化すると約1億3,000万円かかるが、明るいので夜道も少しは安全になること、交換の手間がかからず、町会による電気料の負担が少なくなるという3つの利点がある。

(市民からの要望・質問)

○融雪溝について

春先のまだ雪がある頃から測量しているが、融雪溝の設置準備か？今度どうなるのか？

(市の回答)

- ・警鐘台の向いであれば、昨年度測量した。今年秋位に下流から100m位工事すると土木課から今日聞いた。

(市民からの要望・質問)

○水路・農道について

農地中間管理機構が設置された。今後、ますます高齢化になり農業従事者が少なくなる。休耕地が非常に多くなり、水路・農道の補修に苦難している。水路の補修等は農地水関係の組織の中でやっていかなければならないのか。水路はすべて素掘りなので、毎年泥上げしなければならない。水路の中には用水も排水も用排兼用もあり、農地の約3倍の距離がある。面積が広いので労力も必要だが、参加者が少ない。今後、農地が集約されることで担い手農家の手助けをしているように感じる。何らかの方策を。

(市の回答)

- ・農地中間管理機構は、農地集積の斡旋をしている。水路の補修であれば、マイロードマイタウンや農地水の事業でやることになるのではないかと思う。
- ・中間管理機構ができた背景は減反政策廃止の動きがあるからで、減反廃止で自由に作れることになれば米の値段が下がり、耕作放棄地が増えるためである。農地を虫食い状態にしないため集約し、認定農業者等に配分する役割である。国の政策は大規模農家に向けているもので、市では変えることができない。水路補修については検討する。
- ・猿賀は農地水に加入され、面積も一番大きい。マイロードマイタウン事業は、原材料費と機械借上料について助成するもので、農地水に加入されている町会は50万円まで利用できる。両方使って農地水から人件費を、材料費についてはマイロードマイタウンを活用されてはどうか。少しでも経費を浮かせて整備を進めていただきたい。
- ・水路の泥上げ等に担い手農家の協力が得られないということだが、担い手農家は地域貢献も条件となるので相談してみてもどうか。
- ・農地水は、農業者数が少なくなり、水路や農道の維持管理を地域全体で行って農村環境を守ろうとできた制度。草刈りや泥上げの場合、小遣い程度の日当をかけて町会全体に募集をかけている町会もある。日曜日の朝等であれば農業者以外のサラリーマンも参加しているので、広く呼び掛けてはどうか。
- ・かなりの距離で素掘りの側溝があるとのことだが、5年間かけて2km以上U字溝を入れた町会もある。U字溝は改良区から原材料支給としてもらい、機械の借上げや人件費は農地水のお金でやった。徐々に泥上げの距離を縮めていった。改良区によって事情は違うが地域全体でやっていけるのではないか。

(市民からの要望・質問)

○水田の基盤整備について

田舎館村で水田の基盤整備した時は、村で農家分を負担した。今後、市が主体になり基盤整備の再区画をしてはどうか。

(市の回答)

- ・莫大な費用がかかるので、基盤整備を市単独ではできない。田舎館村で整備した際は、水路を地下に埋めたことにより余分な土地が出たため、その部分を村が買い上げ農地公園にしたので農家負担がなかったと思う。やり方次第ではあるが、同じ状況を平川市で作ることは難しい。国や県に大区画を作れないかと要請はしていく。ご理解願いたい。

(市民からの要望・質問)

○側溝について

家の前の側溝に3年位前まで水がきていたが、今はきていない。雪が流せないため道路へ雪がはみ出してしまう。側溝に水を流してほしい。改良区でお金を取り、水を流していたので雪を捨てていた。

(市の回答)

- ・以前、別な堰へ水を流してもらえないかと要望したが、改良区では冬場の取水はできないと回答していた。改良区へ確認してみる。

(市民からの要望・質問)

○耕作放棄地について

持ち主がこちらにいないため耕作放棄している田から草がのびている。柳も大木になり農道をふさいでいる。苗代に使ったと思われる場所が耕作放棄されている。見た目も悪いので市として指導はしないのか。

(市の回答)

耕作放棄地の改修は農業委員会でやっているが、すべてできない。指導はしていると思う。場所を確認し、農業委員会と連携をとっていく。

(市民からの要望・質問)

○職員人事について

町会の中で農林関係の補助事業の担当をしているが、3年連続で市役所担当者が代わっている。民主党から自民党に代わった上に担当者も毎年変わるので、話が通じず大変である。なるべく変えないでほしい。

(市の回答)

- ・担当者の連続異動は農林課だけではなく、たまたまである。市役所職員を育てるにあたり、その道のプロを育てることも大事だが、あらゆることを覚える人も必要である。担当者を1年毎に変えるのは本人のためにもならないので、できるだけ避けたいと思う。来年の人事では最低3年位は同じ部署にいてもらうよう考えていきたい。参考にする。

(市民からの要望・質問)

○ごみの分別・リサイクルについて

ごみのリサイクルに多くの経費がかかっているのではないか？リサイクルの指導が市内でも徹底していないので、もっとリサイクルに力を入れてほしい。

(市の回答)

- ・平川市はリサイクル率が低い。資源のない日本なので、再利用・再活用していかなければならない。ごみの問題は意識の問題なので、道路にごみを捨てない等小さいうちから意識を変えていかなければならない。リサイクルのため容器を洗う手間があり水道料もかかるとして、やらない人もいるが資源を再利用する時代だと考えてほしい。
- ・リサイクルについては市でも力をいれており、ごみゼロキャンペーンや子供会の回収に協力している。

(市民からの要望・質問)

○歩道について

猿賀小学校からもてなしロマン館までは歩道があるが、ロマン館から尾上方面まで歩道がない。道路が広いわけではなく、県道なので難しいだろうが何とかならないか？

(市の回答)

- ・ロマン館から尾上方面までとなると、距離があるので買収費用や移転費用がかかる。県道なので、地域の皆さんからの要請があれば県に伝えるが、簡単にはいかないだろう。交通安全対策として歩道は設置しなければならないので、要望があった旨は伝える。

(市民からの要望・質問)

○空き家について

高齢化社会となり、猿賀でも空き家が見られるようになった。道路沿いと冬は屋根雪が危険だし、夏場は台風でトタンが飛ぶこともあるだろう。空き家に空き巣が2、3か月住んでいたこともあった。町会で空き家の管理について話し合っているが、市として指導はあるのか。

(市の回答)

- ・行政委員から空き家の数を確認したところ、尾上地域は88か所、碓ヶ関地域は約190か所、平賀地域は約140か所程度だった。個人の財産なので手をつけられないが、来年3月を目途に空き家条例を作ることで準備に入っている。空き家条例に基づいて壊れた家を解体したとしても、その費用の請求がなかなかできないこともある。
- ・3月までに条例を作り、持ち主に管理していただく。これから力を入れて空き家対策をしていく。

(市民からの要望・質問)

○尾上総合支所の樹木について

尾上総合支所の近所だが、冬になると落ち葉が庭へ入ってくる。毎日掃いてもなくならない。秋に一度清掃してもらいたい。

(市の回答)

- ・大変ご迷惑をおかけしている。今後、清掃する。あまりにも伸びている木もあるので、少し剪定することを考えている。

(市民からの要望・質問)

○通学路の除排雪

尾上総合支所裏から尾上中学校へ行く通りは通学路となっているが、冬場は雪が高く積まれ、危ない。何かあってからでは遅い。

(市の回答)

- ・たしかに通学路である。雪が少ない時は、両側の歩道の雪をロータリーで飛ばしている。多い時は片方に雪を積んでいる。排雪はなかなか難しい。
- ・冬場の通学路の安全について、教育委員会では各校長に通学路の点検をお願いしている。

(市民からの要望・質問)

○小学校の統合について

猿賀小学校も金田小学校も児童数が少なくなっている。統合の話はあるのか？

(市の回答)

- ・教育委員会において、猿賀小学校と金田小学校の統合については話し合われたところはなく、今のところ考えていない。

(市民からの要望・質問)

○猿賀公園について

猿賀公園で犬の散歩をしていたら、だめだと注意された。犬の糞を持ち帰っているが、やはり猿賀公園での犬の散歩はだめなのか？

(市の回答)

- ・猿賀公園は、基本的に犬の散歩を行わないようになっている。

(市民からの要望・質問)

○猿賀神社鏡ヶ池について

猿賀神社の鏡ヶ池に蒲の穂がかなり生えている。ハスで有名な池なのに、ハスが育たない。猿賀神社だけでなく市も関係しているのではないかと？

(市の回答)

- ・今年1年かけ、南側半分を整備する。池には相当の堆積物があり、その上に蒲の穂が生えたと思われる。一昨年から泥を取り除き、3年目の今年で終わる。堆積物を取り除かない限り、蒲の穂はいつまでも生えてくる。

(市民からの要望・質問)

○農機具購入時の助成について

H26年度の平川市補正予算が組まれたが、農林関係の金額が相対的に少ないのではないかと。農業振興のため増額してもらいたい。認定農家、担い手農家には国から農機具購入の補助があるが、それ以外の農家が農機具を購入する場合、市単独で補助してほしい。黒石市ですで行っている。平川市でなぜやらないのか？

(市の回答)

- ・農林関係の予算は、当初予算で約7億2,700万円である。6月補正予算を入れると計7億6,130万円程である。農林、土木に関しては、昨年の災害からの復旧を一番に考えるようにした。復旧工事は8月いっぱいまでかかる。約7億6,000万円の予算が全体から見ると少ないというのは意見が分かれるところである。農業が当市の基幹産業であるという考えは変わらず、農業関連産業を育てていきたいと思っている。
- ・個別農家への農機具購入助成は、黒石市でどうやっているのか調べてみる。国では、生産組合等団体がコンバインやスプレーヤーを購入する時、1回目は補助するが買い替えでは補助がでない。個別農家への支援は検討するが、難しいと思う。後日回答する。(6/25 農林課へ報告済み)

(市民からの要望・質問)

○尾崎から小国へ向かう林道整備について

毎年6月に町会で猿賀山を確認するが、尾崎から小国方面へ行けず通行止めになっている。林道を整備する目途はたっているのか？

(市の回答)

災害復旧は、畑や農道を優先しているので、林道はまだかかると思われる。できるだけ早く復旧させたいが、まずは生活に直結するところを優先させたい。ご理解願いたい。